

**令和 8 年度 総務省の政策評価に関する有識者会議（第 2 回）
議事概要**

1 日時：令和 8 年 7 月 22 日（水）10 時 00 分～12 時 00 分

2 場所：総務省第一特別会議室（中央合同庁舎第 2 号館）

3 出席者：

（1）総務省の政策評価に関する有識者会議構成員

（座長）西出 順郎 明治大学専門職大学院ガバナンス研究科専任教授

出雲 明子 明治大学専門職大学院ガバナンス研究科専任教授

重川 純子 埼玉大学教育学部教授

田淵 雪子 行政経営コンサルタント

山本 清 東京大学名誉教授

※新藤健太構成員は御欠席

（2）総務省

令和 8 年度評価対象政策の担当課長等

中井大臣官房政策立案総括審議官、渡邊大臣官房政策評価広報課長等

4 議事概要

各政策の担当課長等から評価書案について説明した後、意見交換を行った。有識者からの主な御意見は以下のとおり。

【政策 2 行政評価等による行政制度・運営の改善】

- ・ 政策評価については、その本来の目的である国民に対する説明責任、また、行政相談については、声なき声、本当に困っている人の声をどうやって拾うのか、という観点が必要ではないか。
- ・ 政策評価のロジックモデルについて、アクティビティの「人材育成」は他の項目にもつながっていると思うので、矢印などでその関係性を示すと分かりやすくなるのではないか。
- ・ 行政相談のロジックモデルについて、認知度は重要な指標であるので、まず認知度があり、利用者の満足度が向上することで、制度が浸透していくという流れを示してはどうか。
- ・ 行政運営改善調査に基づく勧告の数が多ければいいというものではなく、勧告に対してどこまでの対応を求めるのかという観点が必要ではないか。
- ・ 政策評価にあるような「振り返り」の内容の記載について、行政運営改善調査と行政相談においても、読み手が認識できるよう強調してはどうか。

【政策 9 情報通信技術の研究開発・標準化の推進】

- ・ ロジックモデルにおける各事業間の関連性について、完全に独立した事業もあると思うが、ある事業が他の事業を促進するように相互に影響しているものもあるのではないか。

- ・ 行政事業レビューにおける指標の実績値について、年度間で状況が大きく変わった場合は、その点を追記すると分かりやすくなるのではないか。また、単年度だけでなく複数年度で追跡評価する視点も重要ではないか。

【政策 10 情報通信技術高度利活用の推進】

- ・ ロジックモデルにおける「デジタル空間の健全性確保と新たな発展の牽引」（違法・有害情報及び偽・誤情報への対応等）のアウトカム指標は、法の施行によって削除対応等がより迅速に処理されたといった成果を位置付けた方がよいのではないか。
- ・ 長期アウトカムの「誰もが安心・安全にデジタル技術・サービスを利活用できる」について、政策改善や事業者・関係省庁との連携につなげる観点からも、その現状、国民の声を把握することが必要ではないか。
- ・ ロジックモデルにおけるアウトカムの一部の目標値については、実績値等を踏まえれば、もう少し高く設定してもよいのではないか。
- ・ 本政策は、多くの分野にまたがっており、省庁横断的な取組が今後ますます必要になるのではないか。

（文責：総務省大臣官房政策評価広報課）